

附属幼稚園におけるコンピュータとその利用

附属幼稚園園長 梁川 正

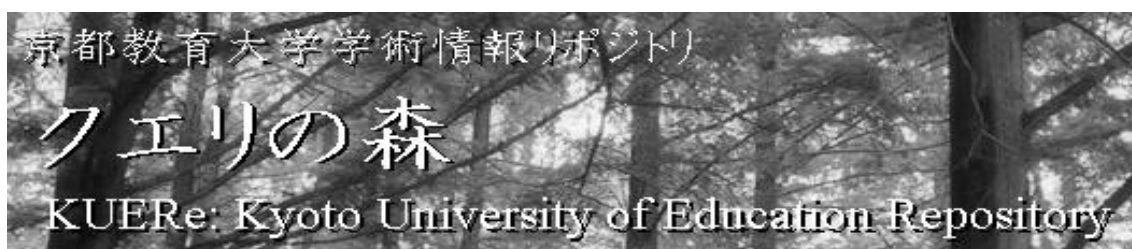
A T Mネットワークシステムと附属学校園教育用コンピュータシステムが平成10年度に整備され、附属幼稚園におけるコンピュータ利用は格段に推進されることとなった。

大学や各附属学校と光ケーブルで接続され、さらに、教育用コンピュータシステムによりノートパソコン等が導入された結果、電子メールやインターネットの利用が日常的に行われるようになった。

上記の他、パソコンはワープロをはじめ、エクセル等による統計処理や牛乳等の物品管理にも利用されている。

T V会議システムの設置により、附属幼稚園と現園長が所属する附属環境教育実践センターとの間で、T V会議システムによるT V画像を通した応答が行えるようになった。また、附属幼稚園のT V会議システムには、ワイヤレスのカメラが設置されており、カメラを保育室等へ持って行って、園児の活動状況等をT V会議システムが設置してある教官室で観察することができるようになり、さらに、同時に設置された液晶プロジェクタによって大画面での表示も可能となった。この液晶プロジェクタは保護者や園児に対する園長等の講話や講演等のときにも利用できるようになった。

教育用コンピュータシステムにより設置されたスキャナーやデジタルカメラは園児や保護者に配布する「おたより」等に画像や園児の描いた絵等を取り込むときに利用されており、この他にも、今後は保育の日案や週案等の中にも利用していければと考えている。



この文献は、国立情報学研究所において電子化されたものを、本学でテキスト加工したものです。

